

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2970300402
法人名	有限会社 あんしん
事業所名	グループホーム あんしん
所在地	大和郡山市横田町760 (電話) 0743-59-5008
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	橿原市大久保町302-1
訪問調査日	平成19年9月11日

【情報提供票より】(19年 8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	26 人
利用定員数計	18 人
常勤	5 人
非常勤	18 人
常勤換算	11 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	平屋 階建て、 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	94,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1740 円		

(4) 利用者の概要(8月28日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島クリニック、岡谷病院、片桐診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大和郡山市の旧市街に位置する民家を改装し、一部増築された2ユニットのグループホームです。法人代表者は周辺地域の理解を得るために、約1年間かけて何回も話し合いを重ね、平成15年に開設されました。今ではホーム主催の「夏祭り」に地域の住民参加もあり、日常的に親しく交流が図られています。利用者は、個々の身体機能や状態に応じて、2つのユニットに分かれ、それぞれの生活ペースで、持てる力を発揮しながら、職員の見守りと支援の中で、穏やかにメリハリある生活をしておられます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果をふまえ、改善に向けて靴箱を購入し、玄関を整備する等の取り組みをされています。本年度より新しいホーム長を迎え、職員の勤務体制を始め、全面的に「利用者本位」の体制に変換した新しい体制に転換しておられます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、自己評価は代表者・管理者・各ユニットのリーダーで行われていますが、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにされ、外部評価の結果をミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をされるなど、サービスの質の向上に努められるよう期待します。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>現在、運営推進会議の開催の準備段階であり、近々開催の予定をされています。利用者の暮らしの安定と充実を支援するために、運営推進会議の果たす機能は大きいものがありますので、2ヶ月に1回の開催を基本とし、早期に開催されることが望まれます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月「あんしん通信」を発行し、預かり金の報告とともに担当職員により利用者の現在の報告をされています。また、家族等の訪問時には利用者ごとに作成されたアルバムをみてもらい、ホームでの様子を知らせています。職員体制の変更については、行事終了後などに家族等に報告されています。なお、手紙や訪問時、交流会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。職員体制の変更については、行事終了後などに家族等に報告されています。さらに、出された意見、要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させておられます。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事や敬老会、クリーン活動等には利用者と共に積極的に参加されています。また、ホームの夏祭りに近隣の住民が参加されたり、季節の野菜や花を持って訪問されるなど、地域との交流に努められています。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、住み慣れた地域での安心した暮らしを謳ったホームの理念をつくりあげられています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしています。また、ミーティングや申し送りの時にも、理念に必ず触れ、確認し合うようにされています。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や敬老会、クリーン活動等には利用者と共に積極的に参加されています。また、ホームの夏祭りに近隣の住民が参加されたり、季節の野菜や花を持って訪問されるなど、地域との交流に努められています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価の指摘を具体的に改善しておられます。また、今年度の自己評価は、代表者・管理者・各ユニットのリーダーで行われており、改善にも取り組んでおられます。		サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにされ、外部評価の結果をミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をされるなど、サービスの質の向上に努められるよう期待します。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催の準備段階であり、近々開催の予定をされています。		利用者の暮らしの安定と充実を支援するために、運営推進会議の果たす機能は大きいものがありますので、2ヶ月に1回の開催を基本とし、早期に開催されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口、担当者に対して、ホームの実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝え、相談されています。		地域密着型サービスに位置づけされたことから、行政・包括支援センター等との相互の情報交換と連携に向けた取り組みをされるよう期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あんしん通信」を発行し、預かり金の報告とともに担当職員により利用者の現在の報告をされています。また、家族等の訪問時には利用者ごとに作成されたアルバムをみてもらい、ホームでの様子を知らせています。職員体制の変更については、行事終了後などに家族等に報告されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には手紙や訪問時、交流会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。また、近々アンケートも計画されています。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、家族からの提案で、目薬の点眼記録表を作成する等の取り組みをされています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけておられます。新しい職員が入る場合も、利用者にきちんと紹介し、利用者との関係づくりを重点においた研修を実施する等、ダメージを防ぐ配慮がなされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には順番に職員が受講できるようにし、研修報告書を全職員が閲覧できるようにされています。また、ホームでの研修は、職員が立案・進行しながら講師となり、お互いに学ぶ体制を作られています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャラバンメイト研修に参加されています。また、関連の事業所との連絡会を立ち上げ、運営者レベルの交流のほかに、職員レベルの交流組織作りがすすめられており、学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に職員の訪問による相談・聞き取り、ホームに慣れもらうためのお試し利用、一時入居の活用、入居決定後の生活歴などの把握を通じて、スムーズに生活に馴染めるよう取り組まれています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることにより、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりに留意されています。また、支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりや声かけを工夫されています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努められ、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしてされています。また、意識疎通が困難な方には、家族等から情報を得るようにされています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族等には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようされています。また、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画の作成に活かすようにされています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本は3ヶ月ごとに見直しされています。職員が情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には、終了する前であっても検討し、見直しをされています。</p>		<p>介護計画の遂行状況、効果などの確認も含め、介護計画に本人、家族等の確認欄と年月日を設定されては如何でしょうか。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や外出時の送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力されています。また、往診や24時間相談対応の協力を得るなど、医療機関との連携体制を活かした支援もされています。		地域の住民が求める多機能性への対応として、ホームの機能や知識を活用され、地域の中で、認知症ケアや介護全般の情報の発信源となられるよう期待いたします。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、往診に来てもらうケースもあり、医療機関と関係を密に結んでおられます。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	連携医療機関が複数あり、往診、24時間相談対応を含め、重度者へのケアの協力を得ておられ、契約時にはホームが対応し得る最大のケアについて説明を行っておられます。また、終末に対する対応方針を定め、家族等と話し合いを行っておられます。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフミーティングで、職員の意識向上を図るとともに、管理者や代表者から折にふれ話をし、利用者一人ひとりを尊重した個別対応の徹底を図っておられます。「あんしん通信」掲載の写真については、家族の了解を得ておられます。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っておられますが、時間を区切った過ごし方はされておらず、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援を行っておられます。また、買い物や外出等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決めるようにされています。また、調理、盛り付け、片付け等も利用者とともにを行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にされています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間は設定されていますが、利用者の入浴したい日、希望する時間に入浴できるよう支援されています。職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望や健康状態を確認し入っていただくよう支援されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにされています。食事作りや、洗濯物干し・たたみ、日めくり作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作るよう支援されています。また、食事の献立も利用者と相談しながら決めておられます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけてます。また、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、外食、買い物などの機会を作る支援をされています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠されておらず、自由に出入りできます。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにされています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を行っておられます。地域の協力体制については、自治会や消防署、警察に協力を呼びかけておられます。また、ホームでの災害用の備蓄として、台所やストックルームに、食材や水等を確保しておられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有されています。また、食事内容を記録し、おおまかに個々の栄養摂取量を把握されています。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の出来る匂い、鉄板焼きや柏餅など、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をされています。ホーム内の各所にソファが設置され、囲炉裏やサンデッキ等くつろげる居場所があります。また、明るい雰囲気のある室内になるように、季節の花を生けたり、庭に季節の木や野菜を植えるなど季節感を演出されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の好みや生活習慣及び体調に合わせて畳に変更できるように配慮されています。また、フロアの飾りつけや家具等は利用者の使用していたものを持ち込んでもらうなど、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をされています。		